

## 【青森県五所川原市】 校務DX計画

当市の校務DXの現状として、令和5年度に実施した調査「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」の自己点検結果において当市の得点が学校及び学校設置者ともに青森県全域の平均得点を上回る結果となったものの、学校設置者としては統合型校務支援システムが未導入であることなど、一部の項目については課題が残る結果となったため、今後、以下のとおり校務DXを推進する。

### 1 1人1台端末の活用

1人1台端末を活用することにより、以下の取組みについて継続し、及び新たに実施することで教職員の入力作業、集計作業の軽減等、教職員の業務効率化を推進する。

- ・ いじめ、不登校などの早期発見、早期対応の観点から、学習状況の把握に止まらず、健康観察状況や学校生活状況等のデータ活用効果についても、個人情報に留意しつつ関係機関との連携・推進に取り組む。
- ・ ICTを利活用した学校等からの情報発信により教職員の資料作成の負担を軽減するとともに、家庭、地域等に対して学校の教育活動への理解を促進する。
- ・ 個別最適な学習を進められるよう、校務や学習の様々なデータを可視化し、散在している教育データを有効に活用できるための教育ダッシュボード等の構築に取り組む。
- ・ ICTを活用した授業改善や指導方法の共有など、学校のニーズに応じた市域内（市内小学校、同中学校）での支援体制を構築する。

### 2 統合型校務支援システム等の導入による校務のデジタル化

これまで分離していた学習系ネットワークと校務系ネットワークを統合し、セキュリティ確保のために統合認証基盤を用いたアクセス制御による対策を行った上で統合型校務支援システム等を導入し、学校運営を支える情報基盤を整備することで、以下の業務内容の効率化、業務量縮減並びに情報の一元管理及び共有化を実現する。

- ・ FAXでのやり取りや押印の見直しを行い、事務のデジタル化を推進する。
- ・ これまで教職員が個々で管理していた情報をシステムに入力し、一元管理することにより、業務の省力化・効率化を推進する。
- ・ システムに入力された児童生徒の出欠情報及び成績情報等が各種帳票へ反映されることにより、転記等によるミスの防止を図る。
- ・ システムの各種ダッシュボード機能により、児童生徒の情報を可視化することで教職員の気づきを最大化し、個に応じた指導や組織的な学級運営・学校経営を推進する。
- ・ システムのグループウェア機能により、教職員間の情報共有を迅速に行い、学校業務全体の生産性向上につなげる。